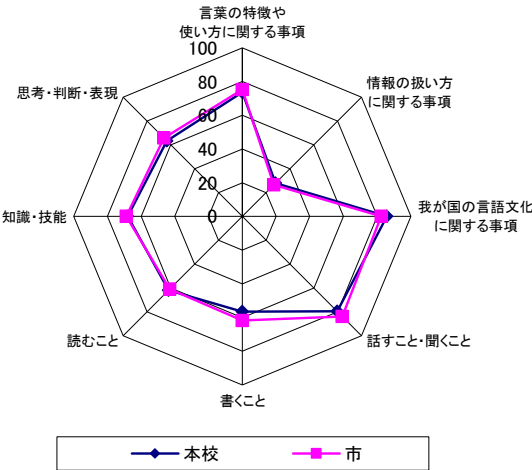


宇都宮市立横川東小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	73.7	75.3	77.1
	情報の扱い方に関する事項	27.9	26.5	27.8
	我が国の言語文化に関する事項	85.7	82.4	81.0
	話すこと・聞くこと	79.7	83.9	84.2
	書くこと	56.5	61.7	64.5
	読むこと	61.9	60.9	61.0
観点別	知識・技能	68.0	68.8	70.3
	思考・判断・表現	63.3	65.8	67.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

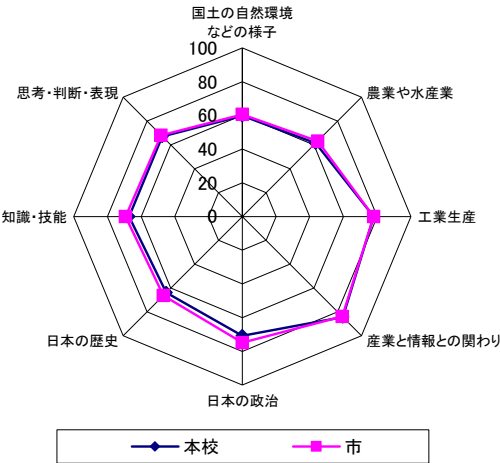
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使い方に関する事項	平均正答率は、市の平均を下回っている。 ○三字の熟語の成り立ちについての問題、文と文との接続の関係について問題においては、市の平均をやや上回っている。 ●漢字を書く問題においては市平均を下回っていて、さらに無回答が約27%と高い問題もあり、課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の読み書きについて、引き続きドリルやプリント、家庭学習等で定着を図るとともに、日常の文章(日記や連絡帳、授業のノート)で既習漢字をしっかりと使えるようにして定着を図る。
情報の扱い方 に関する事項	平均正答率は、市の平均をやや上回っている。 ○情報と情報の関係について理解し、目的に応じて文章を簡単に書く問題については、市の平均を4.5ポイント上回っている。 ●情報と情報との関係につて理解し、文章の情報を整理する問題については2.4ポイント下回っていて、正答率も15.6%と低く、課題が見られる。	・複数の情報を比較したり、関連付けて考えたりする学習を多く取り入れていく。
我が国の言語文化 に関する事項	平均正答率は、市の平均をやや上回っている。 ○和語・漢語・外来語についての問題において正答率85.7%と、市の平均を3.3ポイント上回っていて、理解できている。	・引き続き、「和語」「漢語」「外来語」の由来や、特徴の違いを理解できるよう、文章を比べて読んだり、書き換えたりする活動を取り入れていく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均を下回っている。 ●インタビューの内容を聞き取る問題において、話の内容を捉えることに課題が見られる。	・話合いの場を多く設定するようにし、話の内容を明確にするためにどのようなことに気を付ければよいのか、意識しながら話合いをさせる。 ・相手の意見と自分の意見を比較しながら聞いたり、互いの立場を明確にした話合いを進めたりするなど、話し方・聞き方の基本を意識するよう支援していく。
書くこと	平均正答率は、市の平均を下回っている。 ●指定された長さで文章を書くことや、考えを具体的に書くことに課題ある。	・自分の考えや意見を書く学習では、段落や文字数を指定して文の構成を考える活動を取り入れるようにする。決められた条件の中で、自分の考えやその根拠を明確に表現する活動を繰り返し取り入れていく。
読むこと	平均正答率は、市の平均をやや上回っている。 ○叙述を基に文章の内容を捉える問題においては67.5%と市の平均を8.3ポイント上回っている。 ●情報の扱い方に関する事項同様、情報と情報との関係につて理解し、文章の情報を整理す問題については2.4ポイント下回っていて、正答率も15.6%と低く、課題が見られる。	・読書活動を多く取り入れ、幅広い内容の本に触れる機会を増やしていく。 ・複数の情報を比較したり、関連付けて考えたりする学習を多く取り入れていく。

宇都宮市立横川東小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	59.7	60.5	65.8
	農業や水産業	61.5	63.3	66.0
	工業生産	77.9	77.9	75.7
	産業と情報との関わり	84.4	83.8	76.6
	日本の政治	70.8	74.9	74.1
	日本の歴史	63.8	66.3	68.3
観点別	知識・技能	67.2	69.3	71.4
	思考・判断・表現	67.2	68.1	66.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

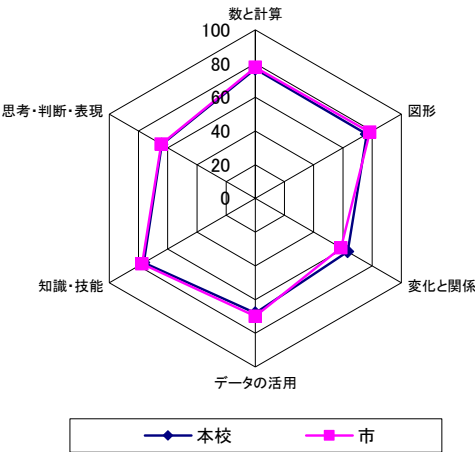
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。 ○世界の中の国土の内容において、季節風についての理解をもとに、太平洋側の気候の特色を雨温図から読み取る設問は、市の正答率を6.9ポイント上回っている。 ●世界の中の国土の内容において、日本の周辺の海洋名に関する設問では、市の正答率を6.8ポイント下回っている。 ●わたしたちの生活と環境の公害に関する設問において、市の正答率を4ポイントやや下回っていて、22.1%と低い正答率である。	○授業の導入や調べ学習の中で、地図帳を積極的に活用し、国の特徴や国土の様子について、その都度確認していく。また、グラフや表を基に考えさせる場を意識的に多く設定し、資料を活用する技能を高めていく。
農業や水産業	平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。 ○日本の食料生産の輸入などの外国とのかかわりにおける課題に関する設問では、市の正答率を2.9ポイント上回っている。 ●米の品質を高める工夫に関する設問は4.6ポイント、日本の主な食料自給率についての設問は3.8ポイント市の平均をやや下回っている。	・資料を読み取るだけでなく、資料から分かったことや考えたことを文章でまとめたり、伝え合ったりする活動を取り入れ、児童がより理解を深められるようにする。また、複数の資料を相互に関連させながら読み取り、表現する活動を取り入れることで、思考力・判断力・表現力を高めていく。
工業生産	平均正答率は、市の平均と同じである。 ○日本の工業生産の自動車の部品の再利用する目的に関する設問については、92.2%と高い正答率である。また市の正答率を5.3ポイント上回っている。 ●自動車の製造工程に関する設問においては市の平均を3.2ポイントとやや下回っている。	・引き続き、予想を立てて学習に取り組んだり、考えたことを表現したりする活動を授業に取り入れ、理解力を高めていく。また、工業製品を身近に感じながら課題を追究できるよう、問いを工夫したり、工場見学等の体験的活動を取り入れたりする。
産業と情報との関わり	平均正答率は、市の平均と同じである。 ○情報の発信と受信の注意点について考える設問では、92.2%と高い正答率で、市の正答率とほぼ同じという結果が出た。産業における情報活用の現状を考える設問でも、市の正答率とほぼ同じである。	・身近な暮らしの中にある情報活用や情報ネットワークについて、コンビニエンスストアやスーパー等でのスマートフォン、パソコン等で行われている実際の情報活用の様子などを提示することで、児童自身の生活と関連付けながら、具体的に理解させていく。そのために、引き続き出前授業等を活用し、ゲストティーチャーを招いて情報産業の更なる理解に努めていく。
日本の政治	平均正答率は、市の平均をやや下回っている。 ○資料から租税の役割を読み取る設問や議会政治について考える設問について市の正答率とほぼ同じである。 ●日本国憲法について基本的人権の尊重の基本的な考え方についての設問では、市の正答率を9.9ポイント下回り、課題が見られる。	・自分たちの暮らしを、より安全に、快適にするために法やきまりはあり、わたしたちの生活と政治は深い関わりがあることを資料を用いて調べたり話し合ったりすることで理解を深められるようにしていきたい。 ●日本国憲法の内容や政治、裁判、税について、自分にとって身近な問題として捉えられるよう、国民一人一人の意識が重要だと理解できるよう、出前授業等を活用したり体験的活動を取り入れたりすることで、知識の習熟を図る。
日本の歴史	平均正答率は、市の平均をやや下回っている。 ○天皇中心の政治の様子や日本風の文化が生まれたころの様子に関する設問では、市の正答率を2.2ポイントやや上回り、豊田秀吉の業績に関する設問では、市の正答率を9ポイント上回っている。 ●鎌倉時代、室町時代の内容の設問は、市の正答率を下回っている。特に元との戦いについての理解をもとに、防壁が築かれた場所に関する設問では、市の正答率を5.8ポイント下回っていて、正答率も37.7%と低く、課題が見られる。	・人物の学習を中心に、業績や時代背景、思いや願い等を捉えさせ、歴史的事象の基本的な知識の定着を図っていく。また、各時代の特徴をまとめるとともに、時代ごとの制度や権力者、思想の変化等を比較検討し、話し合う活動を取り入れ、歴史的事象の意味について時代のつながりを意識しながら理解を深めていく。そして、まとめや振り返りを充実させ、自分の言葉で表現する機会を増やすことでより知識を深めさせたい。

宇都宮市立横川東小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	76.8	77.7	78.6
	図形	76.3	78.4	74.4
	変化と関係	63.2	58.7	53.0
	データの活用	68.0	69.9	57.2
観点別	知識・技能	76.4	77.5	74.0
	思考・判断・表現	64.1	64.5	58.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

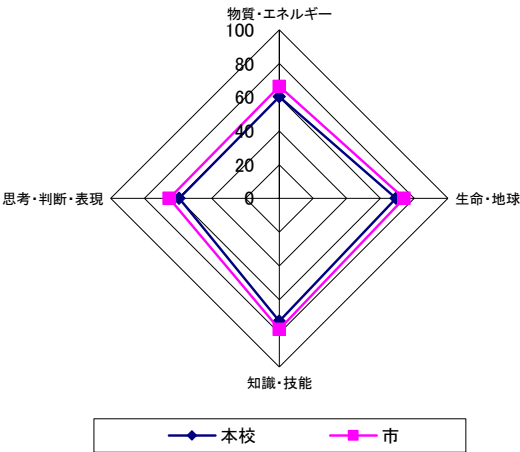
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。 ○基準量が分数の場合において、分数倍の比較量を求める設問では、市の正答率を上回った。 ●異分母分数の減法(約分なし)の計算をする設問では、市の正答率を大きく下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・朝の学習や授業中、家庭学習におけるプリント、ドリル学習や自主学習などで計算の反復練習を継続して実施し、計算力のさらなる向上に向けた取組を行っていく。 ・分数の意味や表現、既習の計算などをもとに図や式などを用いて多面的に考えることができるようにする。
図形	平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。 ○対称の中心についての設問では、市の正答率をやや上回った。 ●2つの角が与えられた三角形の1つの外角を求める設問では、市の正答率を下回った。	・デジタル教科書やタブレットなどを利用し、より理解しやすい授業を目指し、指導の充実を図る。 ・角度に関する問題は、基本的な問題をくり返し解かせ、確実な定着を図る。
変化と関係	平均正答率は、市の平均よりもやや高い。 ○表から面積と人数の割合を求め、どのプールが最も混んでいるかを考察する設問では、市の正答率を上回った。 ○百分率について理解し、割引後の値段を求める式を選ぶ設問では、市の正答率を上回った。	・高い正答率を示したがさらに向上できるよう、算数の補助プリントでは、今後も継続して計算だけでなく数学的な考え方のスキルアップを図る問題にも多く取り組ませ、思考力を高めていきたい。 ・日常の事象における数量の関係に着目し、図や式などを用いて数量の関係について考えることができるようにする。
データの活用	平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。 ○表から平均を求める設問では、市の正答率を上回った。 ●ドットプロットから、最頻値と中央値を読み取る設問では、市の正答率を下回っている。	・つまづきを解消するために、習熟度別学習を生かして個に応じた児童の充実を図る。 ・データの見方については、まなびリンクのツールを活用したり、補助プリントで反復練習をしたりしてデータの処理の仕方やデータの見方が理解できるよう指導の工夫を図る。

宇都宮市立横川東小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	60.3	66.5	66.3
	生命・地球	69.2	74.0	72.6
観点別	知識・技能	72.8	77.6	78.2
	思考・判断・表現	59.4	65.3	63.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は、市の平均をやや下回っている。 ○ものの燃え方に関する設問は、市の平均を上回っている。 ●ふりこのきまりに関する設問では、市の平均を大きく下回っている。 ●メスシリンダー等実験器具の正しい使い方、水溶液の性質に関する設問は市を大きく下回っている。	・観察や実験を行う際は、理解しやすく、また、実感を伴って行えるように、実験方法や道具や装置を工夫する。また、学習環境の整備や実践用具・器具の充実を図っていく。 ・学習問題から実験方法を考え、ノート記述や話し合い活動を通して言語化する機会を積み重ねることで、定着を図っていきたい。
生命・地球	平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。 ○植物の発芽と成長について、予想が正しかった場合に得られる結果を予測する設問では、全国の平均を大きく上回っている。 ●月の形から月と太陽の関係を問う設問では、市の平均を下回っている。 ●台風の上陸とダムの水位を減らす時期の関係を問う設問では、市の平均を下回っている。	・今後も視聴覚教材やICT機器等を活用しながら、できるだけ実感を伴った学習内容の理解を促していく。 ・生き物や植物に関する学習は、今後も実物を観察しながら学習を進め、正しい結果が明確に分かるよう入念に教材等を準備し、学習内容の定着を図っていく。

宇都宮市立横川東小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・主体的・対話的で深い学びの実現を目指す授業改善	・問いをもたせたり、興味関心を高めたりする導入の工夫 ・問題解決の見通しをもたせる活動の設定 ・自分の伸びや変化を自覚できる振り返り活動の実施 ・主体的・対話的で深い学びを実現するICTの効果的な活用	・「勉強が好き」と答える児童の割合は、学年によって差はあるが市の肯定割合とほぼ同程度か上回る結果であった。「学習していて面白い、楽しいと思う」の肯定割合は全学年8割以上である。また、「パソコンを使ってまとめたり、調べたことを伝えたりすることができる」の肯定割合はほとんどの学年で市の平均を上回っている。
・家庭学習の習慣化	・「家庭学習の手引き」の効果的な活用 ・発達段階に応じた家庭学習の内容や分量の検討と指導	・上学年では平日1時間以上家庭学習に取り組んでいる児童が多い。しかし、「30分以下」「ほとんどしない」と答える児童の割合も高く、個人差が大きい。「自分で計画を立てて家庭学習に取り組んでいる」の肯定割合は、ほとんどの学年で市の平均よりも下回った。
・基礎基本の確実な定着	・「朝一学習」(火・木・金曜日の15分間)の実施 ・学期ごとの漢字・計算オリンピックの実施 ・AI型学習ドリルを活用した個に応じた指導の充実	・算数科では、市の平均正答率とほぼ同程度かやや上回る結果であった。理科では、市の平均よりも知識・技能が4.8ポイント、思考・判断・表現が5.9ポイント下回った。国語の「書くこと」では、市よりも5.2ポイント低かった。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・国・県・市の調査において、「自分の考えを書いたり話したりする」問題では正答率が平均よりやや低い。自分の考えを書く活動の習慣化やグループ、全体での学び合いの場を工夫するなど自分の考えをもたせるための支援を行い、表現力の育成に努める。

・国語・算数の知識・技能の平均正答率は、国・県・市の平均とほぼ同程度か上回っている。基礎基本となる学力はおおむね身に付いていると言える。「朝一学習」や漢字・計算オリンピックなどの活動の充実を図り、基礎基本の徹底を図る。さらにAI型学習ドリルを活用して学習内容の確実な定着に努める。

・県・市の調査において、「家で学校の宿題をしている」に肯定的に回答した児童は約9割だが、家庭学習の時間は個人差が大きい。また、「自分で計画を立てて家庭学習に取り組んでいる」の肯定割合は、ほとんどの学年で市の平均よりも下回っていた。次年度は家庭学習の習慣の定着に向けて家庭学習の手引きや自主学習ノートの活用するなど、家庭との連携を図りながらより一層の充実を図る。